

#007 お天気雑記帳

時の言葉

《未明》

2007年4月1日に気象庁の予報用語が改正され、「0時～3時」を「未明」と呼ぶことになりました。それまでの「午前3時頃まで」が、他の時間帯の表現と異なっていたため、見直したのだと思います。

『広辞苑』に「未明(みめい):夜がまだすっかり明けきらない頃」とあります。未明は陽が昇る少し前の時間帯だと思っていたので、この改正案を見たとき、かなり抵抗がありました。マスコミや国語学者から反対意見が出るのではないかと思ったのですが、それらしき動きはありませんでした。改正から13年が経過し、ニュースや天気予報で「未明」という言葉をよく聞くようになって慣れてはきたのですが、いまだに違和感があります。

時間	旧	新
00時～03時	午前3時頃まで	未明
03時～06時	明け方	明け方
06時～09時	朝のうち	朝
09時～12時	昼前	昼前
12時～15時	昼過ぎ	昼過ぎ
15時～18時	夕方	夕方
18時～21時	宵のうち	夜のはじめ頃
21時～24時	夜遅く	夜遅く

2003年にNHKが時の言葉の全国調査を行っています。「夜半」は「23時～2時」、「深夜」は「0時～2時」、「未明」は「2時～4時」と思っていた人が多かったようです。また、「0時～3時」を何と表現したら良いかを質問したところ、「深夜」という回答が多くありました。

予報用語の「0時～3時」を「深夜」としなかったのは、他の法令などで使われている時間帯と混同される可能性があったからだと思われます。たとえば、労働基準法の深夜は「22時～5時」で、タクシーの深夜割増料金もこの時間です。風俗営業法の深夜は「0時～日の出」です。

2005年発行のNHK『ことばのハンドブック』に「放送では、「未明」を省略するか、できるだけ「午前×時ころ」と具体的な時間を言う配慮が必要です。「未明」は限られた場合のみ使うと考えてください。」とあり、当時は、放送ではできるだけ「未明」を使わないようにしていたようです。今は普通に使われるようになりましたので、次の改訂版では、解説が大きく変わるのではないのでしょうか。

かつては、陽が昇るころを、光の変化に合わせて「あかつき」「しのめ」「あけぼの」と区分して表していました。また陽が沈むころも「たそがれ」「夕暮れ」「宵闇」など趣のあ

る言葉がたくさんありました。どれも日本語の美しさを感じる言葉です。

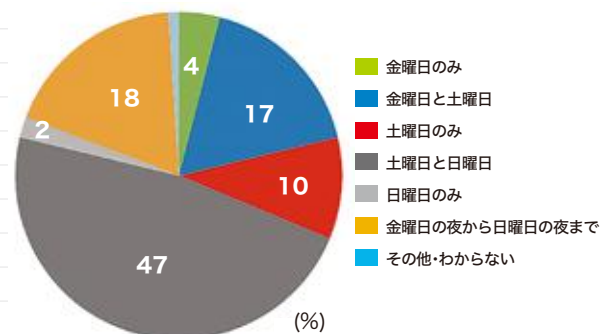
2007年の改正で最も不評だったのが「夜のはじめ頃」です。改正案が公表されたとき「日本語として情緒ある言葉、美しい言葉、好きな言葉なので予報用語の言葉として残して欲しい」という、たくさんの反対意見があったのですが、「もっと遅い時間帯を表すものと理解されている」との理由で、そのままになりました。そのせいか、放送でこの言葉を聞くことは少ないように感じます。

《週末》

天気予報で「週末に天気が崩れるでしょう」といった解説を、よく耳にします。この「週末」、人によって受け取り方が異なっているようです。

1999年にNHKが行った全国調査では、「土曜日と日曜日」と回答した人が47%で最も多かったのですが、「金曜日」を週末と考えている人が39%、「日曜日は、週の初めで、週末ではない」と考えている人が31%と、かなりバラツキがありました。そのため、厳密さ・正確さが求められるニュース報道などでは、「週末」を使わずに、具体的な日で放送しています。

図1 「週末」とはどのような期間を表すと思いますか。



出典: ことばの研究(NHK放送文化研究所)

気象用語の「週末」は「土・日曜日」と決められています。天気予報の「週末に天気が崩れるでしょう」の解説は、「土曜日または日曜日に雨が降る」という意味です。もし、金曜日や月曜日に雨が降る可能性があっても、予報はハズれることもありますので、それほど気にせず解説しているのだと思います。もし、台風が接近するような深刻な気象現象であれば、「週末」とは言わずに、具体的な日で解説すると思います。

気象予報士(株)富士ピー・エス顧問 松嶋 憲昭